# 5 コーヒーで幸せな時間を

Coffee roaster moksa　オーナー夫妻

## 服部　文雄（ふみお）さん・麻衣（まい）さん

古民家を改装した空間はゆったりした時間が流れます。

厳選された世界各国のコーヒー豆が購入できます。

夫の文雄さんは 1981年、愛知のお生まれ。

妻の麻衣さんは 1980年、大阪のお生まれ。

文雄さんは、学校卒業後、電気関係の商社に勤め、転勤で各地を巡る中、大阪赴任中に麻衣さんと出会い、2009年に結婚。当時、麻衣さんはシステムエンジニアとしてパソコンに向かう仕事についていました。結婚後まもなく、麻衣さんはパソコンに向かう仕事より人と交流する仕事がしたい…と、10年勤めた会社を退社。続くように、会社員という立場に違和感をもっていた文雄さんも 10年勤務した会社を退社します。ほぼ同時に、安定した立場を捨てた事に不安はありませんでしたか?との問いには、私が先でしたし、それは全くなかったですね…との麻衣さんのお答えに、そうだね…と文雄さんが自然な笑顔を向けます。その後は、それまでの貯金と民泊活用で捻出したお金で国内外各所を旅します。正に自分探しの旅でした…と当時を振り返ります。

人生を変えたのは、国分寺にあるお店での衝撃を受けたコーヒーとの出会いでした。その後、焙煎を学び、コーヒー専門店、焙煎所、本場イタリアのエスプレッソまで 8年を費やして研究を重ね、世界に通用する日本一のコーヒーが完成した!との自負をもって 2019年、国分寺に「moksa Coffee」の焙煎所をオープンさせました。

現在2号店となった蝶ケ野の古民家は、当初、別荘のつもりで借りていましたが、人が集まる中、こんな場所があったらいいね、これ面白くない…という声が集まり、お店を開く流れになり、国分寺と南伊豆町の 2拠点生活が始まりました。

Moksa（モクサ）の意味を尋ねると「モクサはサンスクリット語で、完全な自由と束縛からの開放という意味がありまして、このコーヒーを飲んで、一時的にでも日常の束縛から解放された幸せな時間を過ごしましょう!という意味です。」とのこと。店内にはゆったりとした時間が流れます。

夢を伺うと、麻衣さんは、セルフビルド出来るタイニーハウスが欲しい…文雄さんは、海の近くに住んでカフェをやりたい…とのこと。ご夫婦ともに、夢はまだまだ途中のようです。

Please follow me!

オンラインショップ　Instagram　LINE

**Coffee roaster**
**moksa 南伊豆店**
〒415-0314
静岡県賀茂郡南伊豆町蝶ケ野158-4
mail:
moksa.minamiizu@gmail.com
営業時間 10:00～18:00
水曜定休





# 6 地方だから実現できる

松崎町地域おこし協力隊員
第1回「まつざきオハナ・マルシェ」運営委員長

## 松谷　あけみ（AKEMI）さん

1965年、東京のお生まれ。

学生時代からビジュアル・アートに関心があり、卒業後は映像制作の業界で勤務。その後、25歳に語学を活かし貿易関係の仕事への転職を決意。IT関連の外資メーカーや商社で働きながら、休暇となれば世界中を旅していたそうです。2002年にはOL生活を退き、独立。東京青山の自宅でハワイのヒーリング・サロンを7年ほど経営しました。再び転機が訪れ、2009年にハワイ島へ移住、ヒーリングツアー会社を現地ハワイで設立。当時はまだ珍しい、7人乗りのプライベート・ツアーで一人旅の方からグループを対象に、秘境めぐりやグリーン・ツーリズムのガイドをされていたそうです。

2019年秋に一旦帰国した後、間もなくコロナ渦に。ツアー会社を諦めて、日本に拠点を移すことになります。2022年、ハワイのような大自然に囲まれた環境を求めて、伊豆での移住先を探していたところ、松崎町がグリーンツーリズムの協力隊を募集していることを知り、応募。2022年の10月に、松崎へ移住。豊かな自然環境、松崎とハワイには深い共通点があると話します。

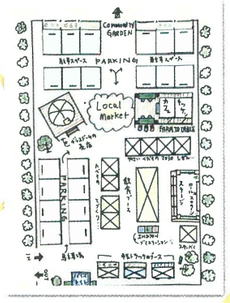
海外で、自然と人が共生する暮らしや、マーケット文化を経験してきたAKEMIさんは、青空マーケットの魅力をグリーンツーリズム企画として町に提出。地域に根ざしたマーケットは、自然との共生、健康的な食文化、地域愛、地域経済の活性化、といった持続可能なコミュニティを育み、グリーン・ツーリズムに繋がるとの思いからです。町のいろいろな方々とお話する中で、次第に運営委員会が立ち上がり、町長の後押しもあり、たった4か月でマルシェを開催することになりました。「花とロマンの里　松崎町」のお花のイメージと、ハワイ語の「オハナ＝家族、仲間、つながり」とを掛け合わせて名づけられた「まつざきオハナ・マルシェ」は、こんな風に、町の有志だけで結成されました。

当日、松崎町外からも含め65店の出店があり、1，500人が来場するイベントになりました。町の有志、協力隊、関係者が一つの目的のためにボランティアで結集した事は、このマルシェの特徴であり、町にとっても初の試みでした。まだまだ町の実行委員の数は少なく、継続するには課題も多いとの事。イベントをして一番よかったことは、多くの方がハッピーを分かち合い、喜んで下さったこと。このおまつりが次のおまつりに展開される、そのきっかけになればと話されました。

夢を伺うと「自然環境や文化の豊かな松崎町で、地元の個性を活かし新規事業者にも光をあてた、持続可能なマーケットを定着していけたらと考えています。また今回のマルシェが地域を超えて様々な人を繋いだように、松崎町が他地区にも声かけし、伊豆全域をひとつに繋いで発信していける場所になれたら素敵ですね」とのこと。静岡県で一番小さな町のミライを繋ぐ人だと思います。

多くの出店と人々で賑わった「まつざきオハナ・マルシェ」

イメージを伝えるために書かれたマルシェのイラスト




**「まつざきオハナ・マルシェ」運営委員会**
mail:
greenohana.matsuzaki@gmail.com